



園だより

宮崎大学教育学部附属幼稚園
令和5年度 第5号

1学期後半が始まりました。

1学期後半が始まり、残暑厳しい中ですが、子ども達は秋の虫を探したり、運動会に向けて運動遊びに取り組んだり、好きな遊びを元気に楽しんでいます。夏休み明けの子ども達は、体も心もひとまわり大きくなったように感じました。きっとご家庭で充実した夏休みを過ごしたからですね。子ども達も保護者の皆様も職員も、元気に落ち着いて1学期後半の園生活のスタートがきれましたことは、何よりうれしく、素晴らしいことです。本当にありがとうございます。

9月からは、子ども達が自分でかばんを背負って登降園しています。(自分のことは自分でできるようにということと、いざというときに自分で身を守ることができる力をつけるためです)年長さんは、9月から登園時に園庭に入るところから一人でクラスまで行っています。自分で歩む後ろ姿に頼もしさ子ども達の成長を感じています。子ども達の成長を後押しできるように、励ましたり認めたりしていきたいと思えます。休み明けということ、残暑が厳しいことで、体も心も疲れが大きいと思えます。9月15日(金)から、運動会の練習も始まりました。休養や睡眠、栄養をしっかりとって、元気に過ごしてほしいと思えます。1学期後半もどうぞよろしくお願いいたします。

◆ 避難訓練 ◆

8月31日(木)には、地震の避難訓練を、9月1日(防災の日)には、地震・津波発生を想定した避難訓練を行いました。31日は、天候の関係で、遊戯室に避難する訓練をしました。子ども達は、放送や先生の話をよく聞いて、しっかり避難することができました。もしもに備えて、緊急時を想定して訓練することはとても大切ですね。職員も、実際に起こった場合を想定して、避難及び保護者の方へ連絡をさせていただきました。

保護者の皆様にも、れんらくアプリを受信してからの動きを確認していただき、自宅に帰るまでが訓練と意識して取り組んでいただきました。もし、子ども達が公立大に避難する場合は、どのような手段で、どの道を通って、自宅からの所要時間は、などを考えて確認しておくことも必要ですね。保護者の皆様が安全にお迎えに来ていただくまで、子ども達をしっかりと預かりします。普段から「命を守る」ための行動について、園でも家庭でも子ども達と一緒に考えていきましょう。



【防災頭巾を被って】



【だんごおしのポーズ】



【公立大2階に避難】

◆ プール参観 ありがとうございます ◆

今年度は、新しくなったプールで、たくさん水遊びを楽しむことができました。子ども達は、友達や先生と一緒に、水の感触を全員で味わって楽しんでいました。プールの約束をしっかりと守り、安全に楽しむことができました。また、夏休みに水遊びを楽しんだことが、各クラスに掲示してある水遊びカードからうかがえました。夏休みにおうちの方と一緒に水遊びにたくさん取り組んで、できることが増えて、自信をつけた姿も見られました。水に潜ったり、浮かんだり、泳いだりする姿も見られました。9月4日(月)に年少さん、5日(火)に年中さん、6日(水)に年長さんが、プール参観を実施しました。お天気を心配しましたが、何とか実施することができ、よかったです。子ども達の楽しむ姿や頑張る姿を見ていただき、ありがとうございました。



◆ 幼稚園観察実習が終わりました ◆ 保育学実習、教育福祉体験学習と続きます。

実習生は、子ども達と一生懸命に向き合い、子ども達の発達段階や一人ひとりについての理解を深め、どのようにかかわればよいかを学んでいきます。子ども達も出会いを喜び、積極的にかかわろうとしています。9月11日(月)~15日(金)に幼稚園観察実習(2年生)が終わり、実習生は子ども達や先生方からたくさんのことを学ぶことができました。9月は実習が続きます。保護者の皆様、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



◆ 夏の研修から ◆

夏休み中に、先生方はたくさんの研修を受け、多くのことを学ぶことができました。今後の保育に活かしていきたいと思えます。主なものとして、

- 全附連幼稚園教育研究集会(茨城大会) (オンライン)では、『幼児期に「遊ぶ」を考える』という研究主題のもと全国の附属幼稚園の発表から、協議を行いました。
- 九附連幼稚園部会研究会(宮崎大会)は、現地開催を目指して準備を進めてきましたが、台風の影響で急遽、リモート開催としました。テーマ別・部会別での情報交換や協議を行い、講演では、「幼児期にできるこころの健康教育」という演題で、宮崎大学教育学部の境泉洋教授の幼児期の大切さを改めて学ぶお話を聴かせていただきました。
- 全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会・九州国公立幼稚園・こども園教育研究大会(福岡大会)では、「未来へつなぐ幼児教育の創造」という研究主題のもと、対面で協議を行うことができました。以下、記念講演をまとめたものを載せます。

記念講演 「子どもの発達格差と幼児教育」 京都大学大学院 文学研究科 准教授 森口 佑介氏

- 「目の前のことを優先し、今を生きる」傾向にあるか
「将来に備え、未来に向かう」傾向にあるか 幼児期から二極化する現実
- 子どもの発達格差が生まれている。 → 発達格差は拡大する。
→ 目標に向けて自分を制御する力「実行機能」、他者を思いやる力「向社会的行動」の格差 青年期に変化がある



実行機能

安心
信頼

自他関係

他者理解

参考:非認知能力(社会情動的スキル)を育むリーフレット
乳幼児期に育みたい!
未来に向かう力
大阪府教育委員会

- 「安全基地」があることがとても大切 → 十分でない格差は大きくなる。
 - ・ 安心できる大人が安全基地 子どもの心のよりどころ
 - ・ 子どもが不安なときなどに、体や気持ちを受け止めてもらえることで安心感や信頼感が生まれる。 →安全基地
 - ・ いざというときに頼れるところがあることで、子どもはいろいろなことにチャレンジしようという気持ちに安全基地が子どもの「未来に向かう力」の土台
- 幼稚園の役割
 - ・ 子どもの専門家 ・ 安全基地に ・ 園で直接的に社会情動的スキルを高められる
子どもと教師の関係がとても大切 相互関係がよいと実行機能等により効果がある。
教師のストレスが低いと、子どもの実行機能が増す。
 - ・ 遊びは大きな役割を果たす。自分の興味があることで遊んだり、成長とともに友達とかかわるようになっていながら、「目標に向かってがんばる力」「気持ちをコントロールする力」「人とかわる力」も育まれている。